



あさひとハタチ、^{あした}未来のカタチ

～20歳の若者と市長が語り合う～

新しい旭市が誕生した年度に生まれた5人に集まっていただき、将来の夢や旭市のここが好き、まちづくりに望むことなど、米本市長と率直に語り合ってもらいました。若い世代の感性と真剣さが輝く座談会です。



20歳になって実感したことは。

米本 弥一郎市長(以下市長) 今日はお集まりいただき、ありがとうございます。これからも、市役所に来たときには立ち寄ってくださいね。それではまず、皆さんが20歳という節目を迎えて実感していることを聞かせてください。

加瀬 飛空さん(以下加瀬) 20歳は「すっかりとした大人」というイメージを持っていましたが、自分になってみると全然子どもでしたね(笑)。ただ、父と一緒にお酒が飲めるようになったので、そのときに20歳になったことを実感します。

小出 姫花さん(以下小出) 私も加瀬さんと同じように、親とお酒を飲むなど楽しいことが増えました。一方で「一人前の大人にならなければ」「親に恩返しをしなければ」という気持ちも強くなっています。

石橋 蒼依さん(以下石橋) 今まで親にしてきてもらったことを、これからは自分でできるようにして、逆に親にしてあげる側にならなければなりません。そういう人生のけじめとなる時期かなと思います。

市長 私は皆さんの親世代ですから、親御さんを思いやる言葉が聞けるとほっとしますね。

宮崎 翔矢さん(以下宮崎) 僕の夢は自由に生きることです。20歳の節目に自由について考えたときに、自由とは責任の箱庭で、そこに何を入れるかが大切だと思いました。僕の箱庭には、仕事、家族、友人が入り、その箱庭を広げるために都内で働くことを考えています。

嶋田 陽斗さん(以下嶋田) 僕は今年から1人暮らしを始めました。何を食べるか、どこへ行くか、何時に帰ってくるかも全て自由ですが、その分責任が求められるので、自分をしっかりと律する必要があると実感しています。

市長 皆さんの意識は、もう立派な大人だと感じしました。私は市長として、若い人たちが旭市を好きになり、帰ってきたいと思えるまちにする責任があると考えています。

かなえたい将来の夢は。

嶋田 将来の夢はパイロットになることです。小さい頃、よく祖父母に飛行機が見える公園へ連れて行ってもらったことや、小学生のときに飛行機に乗って、大きい金属の塊が空を飛ぶことに感動したのがきっかけです。

市長 幼少期の体験で、将来の夢や人生の道が決まることもありますよ。



ね。
小出 来年、美容師免許を取ったら東京か千葉で何年か下積みを経験して、旭市に戻って自分の理美容室を開くのが夢です。みんなから慕われる、予約が取れないくらい人気のお店にしたいです。
宮崎 僕が目指すITエンジニアは「楽を生む仕事」といえます。専門学校でシステムを開発し、完成した際に自分は頭を使って楽を生む仕事をしたかったと気付きました。旭市もさまざまな面でIT化が必要なので、5年か10年東京で働いたら戻ってくるつもりです。
石橋 私は将来、住みやすいまちづくりに貢献したいと思っています。旭市の都市計画が動画で配信されていますが、私たちZ世代はアナログの時代とITが普及した時代の両方を知っているのです、その感覚を旭市の都市計画に生かしたいです。

市長 旭市でもDX化を進めています。人手不足が進む中、今後は機械ができることは機械、人でなければできないことを人がやる、そんな社会になっていくでしょう。
加瀬 僕がウェディングプランナーを目指した理由は、人にしかできない仕事をしたかったからです。将来の夢は、旭市の海が見える立地を生かして、小さな結婚式場をつくることです。実現するのは難しいかもしれませんが、皆さんが頑張ります。
市長 皆さんの将来の夢を聞かせていただき「旭市に戻ってきた」「旭市の景観を生かしたい」という声もあって、とてもうれしいです。旭市では、シビックプライド(地域への誇りと愛着)を育む取り組みを進めていて、その一環でロケツアーリズムを展開しています。ロケ地になることで旭市の良さを見直し、全国に発信したいと考えています。



旭市の魅力や旭市で育って良かったことは。

石橋 旭市は開放感がありますね。都会にいと息が詰まる感じになるけれど、帰ってくるたびに田園風景や海を見ると心が安らぎます。
嶋田 僕も自然が一番だと思います。1人暮らしをする前は、遊べる場所がたくさんある都会で育った方が楽しかったかなと想像していましたが、夜に帰省すると満天の星空が広がっているし、空気も澄んでいるので今はほっとします。
市長 ものを見るには複眼の思考、平たく言えば比べることが大事です。東京や千葉など、ほかのまちも見た上で、旭市の良さを理解していただいているのが伝わってきました。
加瀬 僕はサーフィンをするので、旭市は波もいいし、海が近くにあるのはありがたいです。
宮崎 きれいな空気や、ありふれた日常は貴重なので、変わらないでほしいですね。それから、おいしい食べ物がたくさんあるのが良いですね。僕は旭市でとれたおいしい物を食べて育ちました。アルバイトをしている地元の飲食店では、ハンバーグが人気です。
市長 皆さんは旭市の豚肉をPRし



加瀬 飛空さん
(椎名内)

一中出身。国際トラベル・ホテル・ブライダル専門学校在学。ウェディングプランナーを目指す。



小出 姫花さん
(鎌数)

二中出身。東洋理容美容専門学校在学。美容師と理容師の免許取得を目指す。二十歳のついで実行委員。



宮崎 翔矢さん
(琴田)

海上中出身。東京IT会公務員専門学校千葉校在学。将来の夢はITエンジニアとして独立すること。



嶋田 陽斗さん
(三川)

飯岡中出身。日本大学在学。航空宇宙工学科で人工衛星や航空機などを学ぶ。将来の夢はパイロットになること。



石橋 蒼依さん
(鍋木)

干潟中出身。杏林大学在学。英語学科を専攻し、都市計画にも関心を持つ。二十歳のついで実行委員会委員長。



好きな場所や 好きなイベントは。

宮崎 一面に広がる田んぼの景色が好きです。イベントはY・O・U・遊フェスティバル。昔、祖母によく連れて行ってもらった思い出があります。

加瀬 Y・O・U・遊フェスティバルは10月開催になりましたね。秋にも花火が見られるのがうれしいです。僕の好きな場所は飯岡灯台。バイクに乗って飯岡バイパスから向かうルートが最高です！

嶋田 中学生のときに同級生と自転車、いいおかみなと公園へ遊びに行き、海に沈む夕日を見たことが記憶に残っています。イベントは、皆さんと同じでY・O・U・遊フェスティバルが好きです。家から近いので、歩いて海岸まで行っていました。

石橋 私の好きな場所は袋公園です。小さい頃は地域の子どものための遊び場、高校生になるとリフレッシュできる癒やしの場になりました。袋公園桜まつりにもよく行きましたよ。

小出 好きな場所はスポーツの森公園です。コロナ禍のときに広い芝生を借りて、陸上競技の自主練習をしたこともありました。私は七夕市民まつりが好きで、今年も神輿を担ぎました。でも昔に比べて規模が小さ

くなり、ちょっと寂しい印象です。
市長 地元の人たちが頑張ってくれています。七夕の飾り付けが年々大変になっています。でも銀座通りの露店が増えて、以前とは違う楽しみ方もできるようになりました。今後も継承していけるよう考えていきます。

まちづくりへの要望は。

石橋 高齢になると車の運転が危険になります。自動運転やデリバリーを取り入れれば、利便性が高くなると思います。

市長 食料品や日用品などのデリバリーや、理美容などの出張サービスをまとめた冊子「シニア生活便利帳」を作成してお配りしています。これからも高齢化が進むので、しっかりと取り組んでいきます。

小出 駅の周りをもっと栄えてほしいですね。高校生に人気があるカフェやカラオケ店ができて、駅から遠くて車がないと行けません。駅の周りが栄えれば、そこで遊ぶ人が増えると思います。

市長 市としても、まちの表玄関にぎわいが欲しいと考えていますが、J・Rの利用客が減ったこともあり、なかなか良い案が出ない状況です。

嶋田 公共交通機関を充実させてほ

しいです。朝の通勤・通学の時間帯にバスが少なく、交通の不便さを感じます。徒歩や自転車で行く高校生はあまりおらず、親に送迎してもらう人がほとんどでした。

市長 市では、コミュニティバスやデマンド交通で移動手段を補完していますが、まだ十分ではありません。持続可能な公共交通網の整備に、今後も取り組みたいです。

宮崎 ライトを持たないと歩けない暗い道もあるので、街灯を増やしてほしいです。街灯が木に隠れているところもあります。

市長 区長さんなどを通じて、市で防犯灯の設置要望を受け付けていますので、相談してみてください。

加瀬 僕も要望があって、通りの電柱が道に出っ張っていて車で通るときに怖いので、歩道が狭すぎて歩きづらいので、改善してもらえたらありがたいです。





市長 昔、電柱を道路に建てた際に、こんなに車が走ることを想定していなかったのかもしれない。電柱の移設は、土地を探さなければならぬので、なかなか難しい問題ですが、安全に通行できるよう改善に努めます。

旭市をより良いまちにするためには。

宮崎 僕は、旭市がIT分野で時代に取り残されないよう、DX化に携わりたいと考えています。そこに若者が活躍できる場があると思います。**市長** まちづくりには若手の力も必要です。ぜひ旭市に戻ってきて活躍してください。

嶋田 旭市の魅力を伝えるのにロケツォリズムはとても良いですね。それで旭市を知った人が「行ってみたい」から「住んでみたい」へ一歩進め



ば、人口が増えるのではないでしょう

市長 移住先を決めるときに、名前を知らないまちへは絶対に行きません。まさに旭市を知ってもらうことが第一歩です。

石橋 人口が減った分、一人一人に支援やサービスを厚くするのも一つの手段かなと思います。高齢の方に、回覧板に要望などを書いてもらえば、まちづくりの参考になると思

います。

市長 確かに、デジタルに慣れていない高齢の方は回覧板などが頼りになるので、それを活用する方法もありますね。

小出 私は末っ子ですが、いずれ旭市に帰ってくると決めたのは、母に「誰か一人はお母さんの近くに住んでいてほしい」と言われたからです。旭市の人の温かさも好きなので、絶対に戻ってきます。

市長 きっと多くの親御さんが、小出さんのお母さんと同じことを望んでいますよ。親から子へ「旭市は良いまちだよ」と声をかけられるように、魅力をもっと発信していきたいと思っています。もう一つ、移住した皆さんから、旭市は人が温かいという話をよく聞きます。NHKの「鶴瓶の家族に乾杯」のロケが来たときも、ご近所の交流が多いという話をしていました。

加瀬 市のためにできることは、ぱっと思い浮かびませんが、千葉の友達が「海に行きたい」というときは、よく旭市に連れてくるので、旭市の魅力を知ってもらって、巻き込んでいければと思っています。

市長 口コミはとても大事です。その行動がまちづくりにつながります。

最後に座談会の感想をお願いします。

石橋 今日は多角的な視点からみんなの考えが聞けて参考になったし、旭市の魅力を改めて実感できました。

小出 最初は、みんな優秀で自分とは違うかなと思ったのですが、人の意見を聞くのは楽しいし、自分の成長にもつながると改めて感じました。
宮崎 故郷は変わってほしくないという思いがありました。みんなの

意見を聞き、時代が変わっていく中で、こういう風に変えていけるのかと新しい気付きが得られました。
嶋田 みんなが旭市をどう思っているかがよく分かり、自分が知らなかったことを知る機会になりました。
加瀬 これまで自分の将来について話し合うことはなかったたので、今日参加してすごく楽しかったです。

市長 自分が20歳の頃よりも、皆さんがしっかりされていて心強く思いました。ぜひ皆さんには、旭市で素晴らしい人生を歩んでほしいと思います。これからの活躍を期待しています。

一同 ありがとうございます。

